

【目的】薬剤溶出型ステント(DES)の使用開始以降、ステント内再狭窄は従来型ステント(BMS)に比し大幅に減少している。しかし、DES においても再狭窄は皆無ではない。そこで今回我々は光干渉断層撮影法(OCT)を用い、BMS および DES ステント内再狭窄病変を観察。その形態学的特徴を分類し検討を行った。【対象】2010年9月より、BMS および DES ステント内再狭窄を呈し OCT にて観察が可能であった 24 例。BMS 群 13 例、DES 11 例で検討した。【方法】セントジュード社製 OCT M2 および ILUMIEN を用い、全例 Flash 法にて観察したのち、ステント内高度再狭窄部位にて静止画像で形態学的特徴分類を行った。形態学分類は、Nives Gonzalo らの分類を用いた。【結果】OCT 上再狭窄組織の構造で、均質は BMS 群 3 例 DES 群 2 例、不均質は BMS 群 6 例 DES 群 5 例、層状は BMS 群 4 例 DES 群 4 例であった。このことから、BMS 群と DES 群との間に大きな差が見られなかった。再狭窄部位の輝度は、高輝度が BMS 群 6 例 46% DES 群 2 例、低輝度が BMS 群 7 例 DES 群 9 例であった。このことから、低輝度を呈する病変が DES 群が多かった。【考察】今回の検討症例では、急性冠症候群が 17 例含まれる。留置直後からステントストラットに血栓が付着している症例が多く含まれる可能性が考えられた。そのため両群において再狭窄組織の構造で、不均質や層状を呈している病変が多いと考えられた。また再狭窄部位の輝度については、OCT での低輝度は血栓もしくは脂質を多く含むプラークと定義されていることから、DES 再狭窄群においては血栓の関与が示唆されると考えられた。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号